

氷 の 山 の 昆 蟲

岩田久二雄^①・奥谷禎一^①・永富昭^①・中根猛彦^②

氷山はスキーでは有名であるが、昆虫採集ではあまり有名でないが、一度訪れた人は口をそろえて、好採集地の折紙をつける。登山コースは、永富氏が別に書いた裏コースと、熊次方面より、又は鳥取県若桜よりの表コースとがある。若桜コースは比較的近いらしいが、私達は誰も行っていないので不明である。熊次コースは、八鹿町よりバスで熊次に至り（熊次行のバスがない時間であれば、鹿倉口下車）ここより登るのである。私は、第1日に熊次村福定の泉屋旅館に1泊した。翌日、雨天ではあつたが、登山し、頂上の小屋に1泊した。晴天を祈つたが、次の日も雨で、残念ながら下山の他はなく、再びぬれぬすみとなつて、福定に下つた。福定より山頂までは、採集をしなければ、登り3時間、下り2時間半の採集に手頃なコースである。宿のサービスも割合によい。足の弱い方なら、このコースをとり、福定の宿を根拠にして、往復されることをおすすめする。

又、福定の上手には放牧場もあり、糞虫も採集できる。私の採集し得たのは、フチケマダソコガネ Aphodius urostigma, ツヤマルエンマコガネ Onthophagus nitidus, ツノコガネ Liatongus phanaeoides 等にすぎないが、ダイコクコガネや其の他 変つたものも棲んでいることであろう。また、福定より牧場に至る道路の途中には、林もあり、マルガタハナカミキリ Judolia cometes, フタオビミドリトラカミキリ Chlorophorus muscosus などを得た。また、日がさすとエンゼミ Tibicen japonica の声も聞える。恐らくゆつくり採集すれば、珍種もとれるのではなからうかと思われた。

福定より頂上に至るコースは、殆ど闊葉樹林で、若桜峠近くまで続いている有望な採集地である。所々に薪の多いのもうれしい。ただ難点は、傾斜が一寸はげしく途中の地蔵堂までは「あすきころがし」と呼ばれている位であるが採集には面白い。地蔵堂附近はシシウドの花が多く、不幸にして雨であつたので大した獲物もなかつたが、晴天であれば、この附近も可成面白いであろう。これから上の林内では、雨で全くだめであつたが、峠近くになり、シヨウマの類の花上には多数のホンホタルモドキ Drilonius striatulus がいた。面白く思つたのは、中部山岳ならこれらの花にセグロ

アオハバチ Tenthredella mesomelas が多数集つている所であるが、これに代つて Tenthredo japonica がむらがつていることである。後者はどこの花にもいた。また前者も恐らく少数ではあるが、分布していることであろう。峠より頂上まではブナ林で、サハのトンネルの下をくぐるようにして登るのであるが、ハエの類が非常に多いのには驚いた。この間でコエゾセミ Tibicen bihamatus を得たが、恐らく氷山では初めてであろう。また、あすきころがしではクロシジミ Niphanda fusca shijima を手づかみにしたのは雨のせいであつたらうか。

何しろ、これからの採集地であるので、2、3見込みのありそうなものをつけ加えてみよう。ガロアムシは京都貴船以西では未発見であるが、氷山あたりでとれないものだろうか。ヒメクサキリが氷上郡の神楽村で採集されている由（恐らく分布南限）だが、九月頃に採集に行けばとれることだろう。チョウでは、ヒサマツミドリシジミ、キマダラルリツバメ、ウスイロヒヨウモンモドキなどは採集されてもよさそうに思う。雪上のいわゆるユキムシ（カワゲラ科）や、ユキガガンボ Chionea japonica etc. もスキーの山だから、スキーに行つた時注意すれば見つかることであろう。また、雪どけの4月末か、5月初にはきつとクチナガハバチ Nipponorhynchus mirabilis（京都府下芦生にて6頭採集されただけ）なども見つかる可能性がある。（奥谷）

私は氷の山の主とも云わるべき守本陸也氏に御案内していただいて、1951年6月10日及び8月8～10日と52年の7月10～12日の3回採集に出かける機会を持つた。養父郡西谷村袋にある守本氏宅を基地とし、横行まで自転車を利用し、それから谷に沿つて登攀するコースを毎回とつたが、横行から1時間ばかりの行程は樹木が伐採されている為、あまり感激しないが、やがて森林帯に入り、充分に森林美と渓谷美とを味わうことができる。守本さんのお話によるとこのコースが他の何れのコースよりも最も面白いそうである。標高1000m位のところで谷を去つて尾根伝いとなるが、道はブナの原生林を縫つて進行する。しかしこのあたりから身の丈よりも高い笹が全山を覆い、道は細くなり、登攀

① 兵庫農科大学昆虫学研究室

② 西京大学生物学教室

は難渋を極める。私達は宿泊の準備をして来なかつた場合は基地から日帰りでできない為に尾根まで到達せずに引き返したが、51年の8月には頂上を極め、頂上の山小屋に1泊した。52年の7月には中腹(標高800m位)の営林署の作業小屋に2泊し(雨天の為動きがとれなかつた)、更に頂上近くにあるスキー小屋まで登つたのであるが、天候不良に妨げられて頂上に達せずに戻っている。溪谷に沿つた森林帯、ブナの大木の間を縫う尾根、頂上近辺とその何れをとつても昆虫の種類は極めて豊富であつて、また夫々異つた趣があり、有能な採集家が赴けば驚喜する数は一再にとどまらないであろう。悲しいかな私は採集にはあまり練達の士とは申せず、採集範囲ともすれば自分の極く狭い専攻分野に限る悪癖がある為、氷の山昆虫相の解明にあまり貢献できなかったのは残念である。(永富)

狩獵蜂

氷の山の昆虫相にもつとも詳しい守本隆也氏が、とくに狩獵蜂に主力をそそいで來られたので、同氏の詳報がいずれは發表されるであろうが、ここに二、三の例を示しても大体この山が採集地として、非常にすぐれていることを示すと思う。私はただ2回山頂までいつたにすぎないが、多湿であつて山腹の植物景観は昆虫の生活を豊富にしていると考えられる。狩獵蜂ではキングチバチ科やチビアナバチ科やドロバチモドキ科などはとくに多いと考えられる。永富昭氏は昨年8月上旬に、オオドロバチモドキ *Nysson malaisei* GUSSAKOVSKIJ, ヤマトドロバチモドキ *Nippononysson rufopictus* YASUMATSU et MAIDL — これはともにキスジガバチ *Gorytes* の労働寄生蜂で稀種である。とくに後者は日本と比島にみつかるといふ2種のものであるや——マダラカギバラバチ *Poecilognathos mega* TERANISHI を採集し、守本氏は同年6月11日にオオタマカギバラバチ *P. magnifica* TERANISHI をとつておられる。釣腹蜂は一層珍しい蜂で、とくに日本で種にとむ複雑な生活法をもつと思われる捕食寄生蜂である。ともに平地にすむ吾々には、容易に入手しにくい蜂である。守本氏はまた多くのキングチバチの珍しい習性を研究しておられるが、中にはカゲロウを狩る種 *Crabro walkeri* SCHUCKARD もある。私は本年8月11日に氷峠から山頂までの、1000m以上の北尾根を1時間ばかり採集したが、主にリョウブの白花にあつまる昆虫70種ほどのうち、双翅目28種、膜翅目19種、鞘翅目18種で、それらがほとんど近畿などでは山地のみで見られるものであつた。それら

の中には狩獵蜂としては *Psen*, *Pemphredon*, *Stigmus*, *Crabro* などがふくまれていた。初めの4属はチビアナバチ科である。蜂のいるは山上では上昇気流で吹きためられているのをみることもあるが、だいた尾根では花にあつまり、南の方のコースの横行の谷ぞいでは、尾根に出るまでに多くみつかる。将来つきない発見があると信じている。(岩田)

膜翅目廣腰亞目(ハバチ類)

今日までに我々が採集し得たものは40種余りにすぎないので、本格的に目録を作製する段階に至っていない。種名の判つているものをすこし並べてみると次の通りである。

ヒラタハバチ科 Pamphilidae

1. *Pamphilus komonensis* TAKEUCHI イセヒラタハバチ

本種はツヤヒラタハバチ *P. lucidus* に酷似した種であるが、頭部の斑紋、脚の黄色なることで区別できる。和名の示すように三重県で記録されたもので稀な種類である。

2. *Pamphilus viriditibialis* TAKEUCHI アオネヒラタハバチ

本種はやや山地性のもので、篠山でも採集できるから、かなり広く分布しているものであろう。

ハバチ科 Tenthredinidae

1. *Aneugmenus kiotonis* TAKEUCHI

5月頃ワラビの葉上で採集できる小型種である。

2. *Loderus insulicola* ROHWER ニセムネアカハバチ(改称)

3. *Paracharactus leucopodus* ROHWER ムネアカキアシハバチ

4. *Megatomostethus crassicornis* ROHWER

幼虫はボタンヅルを食う。幼虫は黒藍色をした一見カブラハバチの幼虫に似ている。

5. *Athalia rosae japonensis* ROHWER カブラハバチ

6. *Athalia japonica* Klug = ホンカブラハバチ

7. *Athalia lugens infumata* MARLATT セグロカブラハバチ

8. *Corymbas nipponica* TAKEUCHI フトコシジロハバチ幼虫を採集しただけである。幼虫の食物は

Rubus 属、*Genm* 属の植物で、形態は頭が黄色で、体は緑色、尾節のみは淡橙黄色で、一面に綿毛状のろうを分泌する特種な幼虫である。

9. *Conaspidia hyalina* SATO ムモンキイロハバチ

10. Conaspidia guttata MATSUMURA モンキハバチ

9. 10は何れも山地性のハバチで、後者は特に美しい。

11. Siobla ferox SMITH オオコシアカハバチ、平地性で何所でもとれる。

12. Siobla venusta apicalis TAKEUCHI ツマシロコシアカハバチ

本種は山地性の種である。

13. Macrophya falsifica MOCSARY ツヤマルクロハバチ

14. Jermakia sibirica KRIECHBAUMER フタオビハバチ

15. Propodea fentoni KIRBY

16. Tenthredo flavipectus MATSUMURA

17. Tenthredo japonica MOCSARY

18. Tenthredella basizonata MALAISE

19. Tenthredella emphytiformis MALAISE

コンボウハバチ科 Cimbicidae

1. Orientabia japonica CAMERON ニッポンコンボウハバチ

本科はこの1種だけしか採集していない。

ミフシハバチ科 Argidae

1. Arge pagana PANZER チユウレンジハバチ

2. Arge nigrinodosa MOYRSCHULSKY アカスジチユウレンジ

以上種名の判明したもののみであるが、何れ多数の標本を得て、本格的の目録を作製する予定である。

シギアブ

(奥谷)

私が現在分類学的研究に努力しているシギアブについての成績を述べると Rhagio spp. 4種、Atherix spp. 3種、Chlisopilus spp. 6種の計3属13種である。この内種名の決定ができたのはキイロシギアブ Rhagio flavimedium COQUILLET, マエグロシギアブ Rhagio costimaculus MATSUMURA, サツマモンシギアブ Atherix satsumana MATSUMURA, キアシキンシギアブ Chrysopilus ditissimus BEZZI の4種で、他の大部分は新種若しくは本邦未記録種と目さるべきものであつて、これらは別に逐次公表の予定である。サツマモンシギアブとキアシキンシギアブは山麓で採集し、マエグロシギアブは中腹の森林帯で swarm をつくつているのを発見し、直ちにネットをふるつて一挙に多数の個体を捕獲した。キイロシギアブは特に山頂附近で多数見出される。(永富)

甲虫類

永山の甲虫に就ては以前から、採集家に興味をもたれた地帯であるに拘らず交通不便のためか殆ど知られていない。近年になつて漸く兵庫農大の諸賢を中心とする方々によつてこの地の生物相の調査が進められつつあることはまことに喜ばしい。目下のところ手許にある材料は僅かであつてこの地の甲虫の一端を知りうるにすぎないが、二、三興味あるものも含まれているのでそれらにつき簡単に説明を加えておきたい。

1. Necrophorus montivagus LEWIS ヒメモンシデムシ

今迄中部山地帯から主として知られたものであるが氷ノ山でも採集された。

2. Epilichas monticola NAKANE クロツヤヒゲナガハナノミ

この種も中部山地帯より近畿山地にわつて分布するが目下の西限は氷ノ山である。

3. Coraeus montanus MIWA et CHUJO ミヤマナカボンタマムシ

中国地方特に伯耆大山附近からよく知られた種であるが、氷ノ山にも産する。氷ノ山の甲虫は概見すると大山のそれとかなり似通つているが之もその1例である。

4. Allecula cryptomeriae LEWIS

この種は日光附近から記載されたものであるが、氷ノ山のものが果して同種かどうかは些か疑がある。

5. Basilepta ruficollis JACOBY ムネアカサルハムシ

日光附近の他伯耆大山、大台ヶ原附近でかなりとれるが一級には少い種である。

6. Liroëtis coeruleipennis WEISE

京都北部より伯耆大山方面にわたりかなりいるが氷ノ山でも割に多い。この種は中部山地ではあまり見かけないから近畿北半と中国地方に多いものと思われる。

7. Chlorophorus muscosus BATES フタオビミドリトラカミキリ

大体南方系で沿海的であると目されるこの種が氷ノ山附近でとれるのは甚だ面白いことである。

8. Thyestilla gebleri FALDERMANN アサカミキリ

以前から氷ノ山で多産することの知られた唯一つの甲虫である。但し之は麻疹の関係で発生するものであるから分布としては余り問題はない。

9. Pharaphodius chokaiensis NOMURA et NAKANE

現在材料をもたないが確か氷ノ山で採集されている。

原産地は山形県の鳥海山、北九州等でもとれている。

甲虫の概観としては前述の如く大山に共通性が深く、中部山地帯とのつながりを示しているが、時には上例7のような特殊なものも混入しており、今後の調査が期待される。(中根)

A List of Coleoptera from Hyonosen

(●は本文に解説されているものである)

- 1 Carabidae オサムシ科
Chlaenius naeviger A. Morawitz アトボシアオゴ
ミムシ
Dromius prolixus Bates ホソアトキリゴミムシ
Bothynoptera tripunctata Bates ミツアナアトキ
リゴミムシ
- 2 Staphylinidae ハネカクシ科
Piestoneus lewisi Harold オオヒラタハネカクシ
- 3 Silphidae シデムシ科
●Necrophorus montivagus Lewis ヒメモンシデムシ
- 4 Leiodidae タマキノコムシ科
Pseudoliodes strigosula Portevin チャイロヒメタ
マキノコムシ
- 5 Scaphidiidae デオキノコムシ科
Scaphidium reitteri Lewis ヘリアカデオキノコムシ
Cyparium mikado Achard カメノコデオキノコムシ
- 6 Lampyridae ホタル科
Lucidina biplagiata Motschulsky オバボタル
Pyrocoelia discicollis Kiesenwetter オオマドボタル
Pyrocoelia fumosa Gorham クロマドボタル
- 7 Drilidae ホタルモドキ科
Drilonius striatulus Kiesenwetter ホソホタルモ
ドキ
- 8 Cantharidae ジョウカイ科
Athemus suturellus Motschulsky ジョウカイボン
Themus cyanipennis Motschulsky アオジョウカイ
Cantharis adusticollis Kiesenwetter ムネアカク
ロジョウカイ
Cantharis badia Kiesenwetter
- 9 Cleridae カツコウムシ科
Cladiscus obeliscus Lewis ホソカツコウムシ
- 10 Temnochilidae コクヌスト科
Lepidoteryx squamulosa Gebler ゴマダラコク
ヌスト
- 11 Nitidulidae ケシキスイ科
Atarphius fasciculata Reitter ケモンケシキスイ
- 12 Cucujidae ヒラタムシ科
Cucujus coccinatus Lewis ベニヒラタムシ

- 13 Languriidae コメツキモドキ科
Pachylanguria ingens Lewis セグロコメツキモ
ドキ
- 14 Colydiidae ホソカタムシ科
Endophloeus serratus Sharp ノコギリホソカタムシ
- 15 Coccinellidae テントウムシ科
Epilachna vigintioctomaculata Motschulsky
オオニジユウヤホシテンテトウ
- 16 Dascillidae ナガハナノミ科
●Epilichas monticola Nakane クロツヤヒゲナガハ
ナノミ
Eubrianax pellucidus Lewis ヒメヒラタヒゲナガ
ハナノミ
- 17 Rhipiceridae クシヒゲムシ科
Horatocera niponica Lewis ムネアカクシヒゲムシ
- 18 Buprestidae タマムシ科
●Coraeus montanus Miwa et Chûjô ミヤマナカ
ボソタマムシ
- 19 Elateridae コメツキムシ科
Athous virens Motschulsky ヒメクロツヤハダコ
メツキ
- 20 Tenebrionidae ゴミムシダマシ科
Diaperis lewisi Bates モンキゴミムシダマシ
Pentaphyllus latreillei Castelnau et Brulle
ニジゴミムシダマ
Elixota curva Marseul コマルキマワリ
Strongylium niponicum Lewis クロナガキマワリ
- 21 Alleculidae クチキムシ科
●Allecula cryptomeriae Lewis
Allecula bilamellata Marseul フナガタクチキムシ
Hymenalia rufipennis Marseul var. アカハネヒメ
クチキムシ
Synstrophus macrophthalmus Reitter カツオガ
タナガクチキムシ
- 22 Mordellidae ハナノミ科
Hoshihananomia hananomi Kôno キボンハナノミ
Hoshihananomia perlata Sulzer シラボンハナノミ
- 23 Chrysomelidae ハムシ科
Crioceris subpolita Baly アカクビナガハムシ
Crioceris rugata Baly キイロクビナガハムシ
Lema puncticollis Curtis ルリクビボンハムシ
Lema honorata Baly ヤマイモハムシ
Chryptocephalus fortunatus Baly キアシルリサル
ムシ
Typophorus variabilis Baly ヒトミヒメサルハムシ

- *Basilepta ruficollé* Jacoby ムネアカサルハムシ
- Chrysolina aurichalcea* Mannerheim ヨモギハムシ
- Cnrysomela populi* Linné ドロノキハムシ
- Agelasa nigriceps* Motschulsky キクピアオハムシ
- *Liroëtis coeruleipennis* Weise
- Stenoluperus nipponensis* Laboissiere ヒゲナガウスバハムシ
- Zipangia obscura* Jacoby
- Cassida rubiginosa rugosopunctata* Motschulsky
アオカメノコハムシ
- Thlaspida japonica* Spaeth イチモンジカメノコハムシ
- Metriona sigillata* Gorham イカリヒメジンガサハムシ
- 24 *Cerambycidae* カミキリムシ科
- Toxotus minutus reini* Heyden モグロハナカミキリ
- Pidonia discoidalis* Pic キベリクロヒメハナカミキリ
- Pidonia grallatrix* Bates オオヒメハナカミキリ
- Pidonia insuturata* Pic ヨコモンヒメハナカミキリ
- Pidonia puziloi* Solsky フタオビノミハナカミキリ
- Leptura misella* Bates チャボハナカミキリ
- Leptura dentatipennis* Pic ヒゲジロハナカミキリ
- Strangalomorpha nymphula* Bates ニンフハナカミキリ
- Strangalia ochraceofasciata* Motschulsky
ヨツジハナカミキリ
- Strangalina contracta* Bates ミヤマホンハナカミキリ
- Leontium viride* Thomson ミドリカミキリ
- Xylotrechus emaciatus* Bates ニイジマトラカミキリ
- Chlorophorus japonicus* Chevrolat コクロトラカミキリ
- *Chlorophorus muscosus* Bates フタオビミドリトラカミキリ
- Chlorophorus notabilis* Pascoe キイロトラカミキリ
- Demonax transilis* Bates トゲヒゲトラカミキリ
- Pterolophia rigida* Bates アトモンサビカミキリ
- Pterolophia zonata* Bates アトジロ(オジロ)サビカミキリ
- Pseudocalamobius japonicus* Bates ドウボンカミキリ
- *Thyestilla gebleri* Faldermann アサカミキリ
- Nupserha marginella* Bates ヘリグロリンゴカミキリ
- Oberea hebescens* Bates ヒメリンゴカミキリ
- Phytoecia simulans* Bates ヒメキクスイカミキリ
(ダイセンカミキリ)
- 25 *Anthribidae* ヒゲナガゾウムシ科
- Tropideres germanus* Sharp
- 26 *Curculionidae* ゾウムシ科
- Aderorrhinus crioceroides* Roelofs チャイロチヨツキリ
- Rhynchites plumbeus* Roelofs クチナガチヨツキリ
- Phymatopoderus pavens* Vosz ヒメクロオトシブミ
- Apoderus geminus* Sharp セアカヒメオトシブミ
- Apoderus rubidus* Motschulsky ウスアカオトシブミ
- Apoderus praecellens* Sharp ムツモンオトシブミ
- Paratrachelophorus longicornis* Roelofs ヒゲナガオトシブミ
- 27 *Lucanidae* クワガタムシ科
- Macrodorcus striatipennis* Motschulsky
スジクワガタ
- 28 *Scarabaeidae* コガネムシ科
- Pleuraphodius lewisi* Waterhouse ヒメスジマダグンコガネ
- *Pharaphodius chokaiensis* Nomura et Nakane
- Hoplia communis* Waterhouse ヒメハナムグリ
- Serica boops* Waterhouse ヒゲナガピロウドコガネ
- Paraserica grisea* Motschulsky ハイイロピロウドコガネ
- Anomala costata* Hope オオスジコガネ
- Anomala flavilabris* Waterhouse ヒメスジコガネ
- Phyllopertha orientalis* Waterhouse
セマダラコガネ
- Phyllopertha irregularis* Waterhouse
キスジコガネ
- Eucetonia roelofsi* Harold アオハナムグリ
- Oxyceonia jucunda* Faldermann
コアオハナムグリ